

令和2年度 帯広市防災会議(書面開催)

委員からのご意見と帯広市の考え方等について

1 帯広市地域防災計画の変更について	
委員	「市町村地域防災計画チェック表」※において前回修正時に記載が無く、今回の変更においても修正されていない項目について、引き続き記載に向けた検討をお願いします。 ※道が作成した市町村の防災計画の見直し時に使用するチェック表
帯広市の考え方等	鋭意、検討を進めてまいります。
委員	「自らの命は自らが守る」という意識の徹底や、地域の災害リスクととるべき避難行動等についての住民の理解を促進するため、行政主導のソフト対策のみでは限界があることを前提とし、防災思想・知識の普及・啓発及び防災教育の推進、住民主体の取組の支援・強化により、社会全体としての防災意識の向上を図らなければならない。⇒大いに賛同する。NHK帯広放送局も報道機関として、防災意識の向上について積極的に関わっていききたい。
帯広市の考え方等	災害による被害を最小限に抑えるためには、「自助」「共助」「公助」による「三助」の取組が重要で、行政による「公助」の充実・強化はもとより、ご意見の通り、防災思想や知識の普及啓発、防災教育の推進などを通じて、「自助」、「共助」の取り組みをさらに推進し、地域の防災力を高めてまいりたいと考えております。
委員	「防災関係機関等の処理すべき事務又は業務の大綱」（一般災害編第1章第7節、地震災害編第1章第4節2）での「北海道電力(株)帯広支店」の記述を削除して「北海道電力ネットワーク(株)帯広支店」のみに、災害対策本部の通信施設の表（一般災害編は第5章第2節別表1、地震災害対策編は第3章第2節3）の「北海道電力」を「北海道電力ネットワーク」に、資料編の「資料4-1 災害情報等通信関係機関の表中」、「北海道電力(株)帯広支店」を「北海道電力ネットワーク(株)帯広支店」にそれぞれ修正をお願いします。（電話聴取）
帯広市の考え方等	ご指摘の通り修正いたします。
委員	令和2年に新型コロナウイルス感染症が全世界的に爆発的な状況で蔓延したことを受け、特に避難所における感染を防止することが一大事業である。これを明記していることは良いことである。また、全ての面で修正したことは現実的なことと思われる。
帯広市の考え方等	感染症対策は喫緊の課題であり、避難所の感染症対策を進めてきましたが、感染症に限らず、防災は不断の見直しが必要であり、今後も皆様方のご協力を得ながら、帯広市の防災体制の構築に努めてまいります。

2 防災対策事業の取り組みについて

委員	帯広市町内会連合会は、毎年帯広市のご支援を得て「防災セミナー」、「防災リーダー研修会」等を行っております。令和2年度は、11月30日に帯広の森体育館において、市職員により「防災セミナー・リーダー研修会」を行いました。その反省会の中で、ある参加者から自主防災組織の問い合わせがあり、町内会に自主防災組織のことについてまだまだ浸透していないのだということが改めて分かりました。
帯広市の考え方等	「共助」の主体は町内会や自主防災組織であり、帯広市でも自主防災組織の育成に力を入れておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年度は、防災訓練や防災出前講座など、意識啓発事業が従前どおりに開催できませんでした。令和3年度につきましては、感染症対策に十分に配慮し、一人でも多くの市民に行き届くよう、開催手法や手段等を検討しながら防災の啓発活動を展開してまいります。

3 帯広市水防計画の変更について

委員	「市町村水防計画チェック表」において前回改正時に記載が無く、今回の変更においても改正されていない項目について、引き続き記載に向けた検討をお願いします。
帯広市の考え方等	鋭意、検討を進めてまいります。
委員	昨年の九州の熊本県において球磨川における洪水を目の当たりにして大変恐ろしいものだったということを実感いたしました。河川のことはまず国で考えることのように感じました。また、河川のすぐそばに社会福祉施設があることは問題だということもあります。
帯広市の考え方等	帯広市は市街地北側に十勝川、東側に札内川が流れ、市街地の中も複数の河川が流れており、洪水ハザードマップでは市街地の大半が浸水想定区域となっております。河川によって、国、北海道、帯広市と管理主体が異なっておりますが、それぞれの役割の下、水害を防ぐための体制等を帯広市水防計画で定めており、今後も関係機関との連携を密にしながら、帯広市の水害対策に努めてまいります。

4 その他

委員	昨今、想定外の様々な災害がおき、私たち市民の安心・安全な生活が脅かされ、不安を感じる事が多々ありますが、帯広市におかれましては、日々防災に関する状況を把握され、変更された防災計画をお示しいただき感謝しております。
委員	日々、変化する災害に対処すべく担当者の皆様には大変ご苦勞をおかけしますが、市民の安寧秩序のためにご検討を祈ります。
帯広市の考え方等	「数十年に一度」という気象現象がもたらす自然災害が毎年のように全国各地で発生し、帯広市においても、いつ、大きな自然災害に見舞われるかは予測がつきません。災害の予防や応急体制などを整理した「帯広市地域防災計画」と、災害に対する平時の備えをまとめた「帯広市強靱化計画」（策定中、3月成案予定）とを両輪に、帯広市の防災体制の強化を図ってまいります。